



ラーニングイノベーション総合研究所ほか
「若手社員1,200名の意識調査（業務支援編）」結果

調査対象	社会人1年目～4年目の就労者
調査方法	インターネット
有効回答数	1,200人
調査時期	2024年10月12日～10月15日

社会人1年目。入社初日の晴れがましい気持ちと同時に不安を覚えたのではないだろうか。2年目はどうだろう。後輩が入社してきて先輩風を吹かせようにも、まだ2年目。新人時代は良くも悪くも右往左往するもの。そんなときに頼りになるのが職場の先輩や上司だ。今回は、若手社員を対象にした調査から、上司や先輩社員からの業務支援の実態についてみてみたい。

社会人1年目「十分にしている」……24.7%

社会人1年目から4年目の若手社員は、上司や先輩からの業務上の支援についてどのように感じているのだろうか。社会人1年目では、「十分にしている」「してもらっている」の合計値が60.0%、2年目は60.6%、3年目は57.0%、4年目は58.0%だった。「十分にしている」だけみると、社会人1年目が最多の24.7%で、業務上の支援を実感している人が多くなっている。

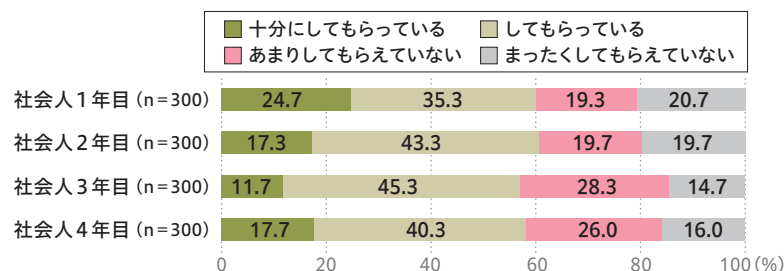
「同期」や「同僚」も“支援者”

業務支援をしてくれる人について、全年次を通じて最も多かったのが、「同じグループ・チームの先輩」、次いで「役職が1つ上の上司」が続いている。また、社会人1年目で「同期」が23.0%、さらに、社会人経験年数が上がるに従って、「同僚」と

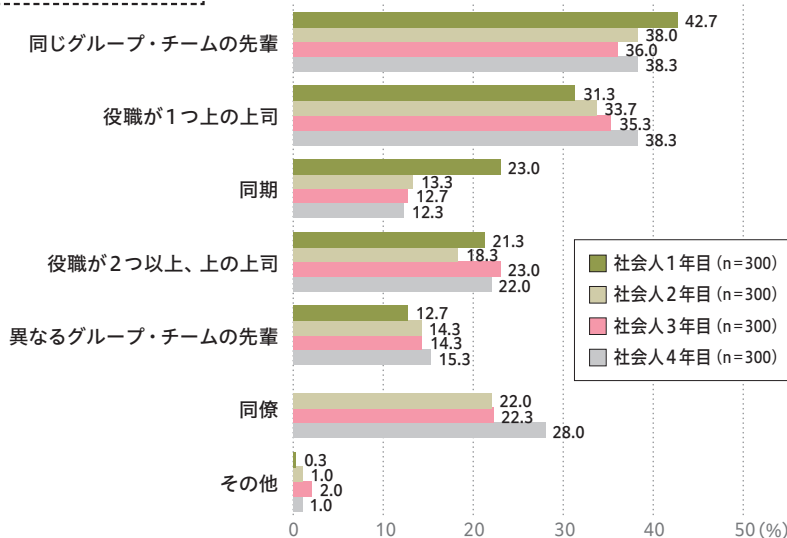
社会人1年目の若手社員が感じている業務支援の実感度合いは

60.0%

業務支援への実感度合い



業務上の支援者



回答した人の割合が高くなる傾向がみられ、社会人4年目では28.0%となっている。若手社員にとっては、同期や同僚も“支援者”として意識する人が多いようだ。職場における人間関係に何かと

気を遣うことも多い時代とはいえ、上司や先輩、そして同僚の存在は、社会人になりたての若手には欠かせないということだろう。（インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊）